

今月の安全運転管理

全席で シートベルト着用 さあ発進

①春の全国交通安全運動に参加しよう

- リモート安全活動など状況に合わせた活動を実施しよう。
- 全席シートベルト着用の徹底を周知しよう。

②子供の飛出し事故を防ごう

- 子供の特性と危険地点を周知しよう。

◆春の全国交通安全運動

【2021年4月6日(火)～15日(木)】

【交通事故死ゼロを目指す日 4月10日(土)】



春の交通安全運動に参加しよう

四月六日から十日間にわたり、「春の全国交通安全運動」が実施されます。この期間中、事業所でも新たな安全活動に取り組みましょう。

事業所がよく行う取組みとして、交通安全DVDの視聴や交通安全講話の聴講等が挙げられますが、コロナ禍によつて全員で集まることが難しい事業所もあるかもしれません。

そこで、パソコンを使ったりモート会議を行い、運行ルートを行なった際のドライブレコーダー映像等を配信し、参加した従業員がルート上の危険地点等を指摘するといった、リモート安全活動に切り替えることも検討しましょう。

また、交通安全DVDの視聴を少人数単位で行う方法も考えられます。少人数で行うことで、視聴後の意見交換が

活発になりやすいといったメリットもあります。ほかには、交通安全テストもあります。問題を従業員に持ち回りで作成させることで、必然的に法令を勉強することになるため、自然に交通法令を身に付けさせることができます。

シートベルトの完全着用を推進しよう

令和二年、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)と警察庁が合同で実施したシートベルト着用状況全国調査の愛知県の結果をみると、運転席及び助手席の着用率はともに九十六%を超えています。後部座席の着用率は高速道路等で七十九・一%、一般道では四十二・九%という低い数値でした。事業所においては、社有車の後部座席に座る人が目に付くところに、シートベルト着用を促すステッカーを掲示するなど、全席シートベルト着用を推進しましょう。

子供の特性を周知して飛出し事故を防ぐ

四月は、新年度の始まりです。この時期は、新入学児童などの子供が交通参加者として登場します。従業員に対しては、子供にはどのような特性があるのかを教え、子供を事故から守る指導を強めましょう。子供は、遊びに夢中になると周囲の状況が目に入らなくなる傾向があります。また、走行してくる車を見て、横断できるかどうかを判断することが苦手なため、結果、道路に飛び出すといったことに繋がります。そして、ひとりである子供よりグループにいる子供のほうが、交通ルールを無視する危険な行動をとりがちです。とくに、新一年生の集団登下校に気をつけてください。また、生活道路や学校、公園の周辺では、子供の姿が見えていなくてもスピードを落とし、注意して運転することを呼び掛けてください。